

国内唯一の 精密ヤスリメーカー

広島鑢製造所

◎オンリーワンブランド「魚地球印」精密ヤスリ

軍港で名高い広島県呉市。市の中心部から車で20分ほど走った東広島市との市境に近い「仁方」地区に、日本で唯一の精密ヤスリ専業メーカー「広島鑢製造所」がある。同社は、製造業の現場で使われる精密ヤスリや仕上げ用ヤスリ、またギターの弦の溝を削るギターヤスリなど高精度の仕上がりが要求される分野に特化したヤスリ製品の開発と生産を行っている。

「仁方」地区には、全国でも珍しいヤスリ専用の工業団地がある。「仁方の鑢」と呼ばれ、古くからヤスリの生産で有名で、国内で販売される金ヤスリの90%以上がこの「仁方」地区で生産されている。広島鑢製造所もその工業団地の一角に本社兼工場を構えている。創業は

1937年。鉄工用ヤスリの生産から事業をスタートしたが、その後の市場競争が激しくなる中で、70年代に一般の工業用ヤスリの生産から撤退、より付加価値の高い精密用ヤスリに特化する経営に舵を切った。以降は精密ヤスリメーカーとしての地歩を固めてきた。現在は自社ブランド「魚地球印（うおちきゅういん）」として約120種類の精密ヤスリ製品を揃えているが、日本国内で精密ヤスリを製造するメーカーは同社1社しかない。

◎独自の製造工程を築き上げる

ヤスリは切削工具の一種で、モノを製造する際、表面や淵に残るバリと呼ばれる不要な突起を削ったり、製品の形状を細かく整えたりする用途で使われる。ヤスリの表面には「目」と呼ばれる

会社概要

社名：株式会社広島鑢製造所
 設立：1937年（昭和12年）9月
 代表：中洲紀子（なかす・のりこ）
 本社：広島県呉市仁方棧橋通1511-18
 電話：0823-79-5671
 F A X：0823-79-1895
 U R L：<http://www.hiroshimayasuri.com/index.html>

資本金：1000万円

業種：精密鑢（ヤスリ）製造

売上高：2012年度売上高：9000万円 利益は非公表
 2013年度売上高：1億円（2014年6月期予想）



なかすのりこ
中洲紀子 社長

細かな刃が並び、その刃を一定方向に動かすことによって、対象物の表面を研ぐようにして削る仕組みだ。ヤスリは表面の目の粗さで用途が分かれ、目の粗い順に荒目（粗目）、中目（ちゅうめ）、細目、油目に分類される。目が細かいほど、高い品質精度が求められる。広島鋳造所では、油目と呼ばれる最も目が細かい種類の製品を扱っている。同社の場合、最も目が細かい製品で、1インチ（25・4ミリメートル）四方に125個の目が入っている。一般の人がヤスリの表面を触っても手の感触では表面に目があるのか分からないほど目が細かい。削り後の表面の仕上がりが荒削りにならず美しく、サンドペーパーで削るより遙かに仕上がりが良いと、利用者の間では広島鋳造所の「魚地球印」製品は高級ブランドとして評判が定着している。

同社の製品評価が高い理由はその製造工程に秘密がある。一般にヤスリの製造は材料の切削、成形、研磨、目立て、焼入れ、研磨の工程を経て作られるが、広島鋳造所ではより精密なヤスリを生産するため、独自の技術を磨いてきた。工程ごとに生産設備の能力を最大限に発揮させること、従来にない高性能かつ精密な製品を生み出すことができる。それは、長年に培われた職人の手の感覚があって、はじめて高品質の製品を生み出すことができるわけだ。自動化された機械では決して真似する事ができない。オンリーワン技術の賜物。と言っても過言ではない。



1本1本を目で確認しながら形を整える地道な作業

同社が高性能な精密ヤスリを生産できるもう1つの秘密は、一連の工程で使用する機械を70年代に海外から導入後、自社でカスタマイズして、すべてオリジナル機に作り上げたことだ。オリジナル機にはそれぞれ職人技のノウハウが詰め込まれている。さらにはオリジナル機械を利用した手作業を付加している。例えば研磨工程では、機械加工を経た後、再び人の手によって研磨を行っている。鑿の製造同様に目に見えるぬ付加価値として他社との差別化の武器になっている。同社3代目の中洲紀子社長は、「他社が同様の設備を整えても、各工程で人の手作業が必要。経験とノウハウが必要なため、簡単に参入はできない」と胸を張って見せる。



広島県呉市仁方の本社兼工場

◎爪ヤスリの復活に意欲を燃やす

今後の事業戦略について中洲社長は、かつて40年ほど前まで生産していた爪ヤスリを復活させたいという。昨今のネイルブームで爪ヤスリのニーズが急速に高まっているため、要望が多く寄せられ現在復刻版の発売に向けた準備に余念がない。中洲社長は、日本で育てた「魚地球印」ブランドの知名度をさらに広めていく考えだ。引き続き生産は広島で行い、市場開拓に向けた販路の整備を進める計画にも余念がない。

◎若手、女性職人の育成に力を注ぐ

この経験とノウハウを支えているのが現場の職人だが、中洲社長は社長就任前から現在迄の10年間、若手職人の育成に力を注いできた。製造業の世界では世代交代に伴う技術継承が大きな課題だが、中洲社長はいち早くこの問題に着手、現在同社の現場を支えているヤスリ職人の平均年齢は30代と技術継承をうまくスライドすることに成功している。特に女性の職人育成に力を入れており、ヤスリ職人の半分が女性で占められる。この点を中洲社長は「女性は職人的な仕事に向いている。女性は細やかさがあり、柔軟に対応できる。意図的に女性を使っている」と説明する。



職人歴40年の技術が受け継がれる